

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 島根県松江市殿町1番地
管理機関名 島根県教育委員会
代表者名 教育長 新田 英夫

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年 4月10日(契約締結日)～ 令和3年 3月31日

2 指定校名・類型

学校名 島根県立平田高等学校
学校長名 坂根 昌宏
類型 地域魅力化型

3 研究開発名 地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の構築

4 研究開発概要

生徒が地域での成功体験を積み上げ、将来的に地域で活躍したいという思いを育むことを目指している。具体的には、以下の3つのテーマに基づき地域協働学習を行う。

① 地域ブランドの創出

- ・地域資源の活用により、今ある資源の価値を再発見し、新しい価値を創造する
- ・地域ブランドの創出のノウハウとそのためのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・生徒が将来地域ブランドの創出に関わる仕事がしたい、または、地元で起業して新しい産業を生み出したいという意欲を育てる。
- ・地域ブランドを次々と創出していくことができる地域人材を育成する。

② 多文化共生社会の推進

- ・多文化共生社会の推進に関わるノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・同じような手法によって、多様な文化を持つ人々が住みやすい街づくりを進める。

③ ファン人口・交流人口の増加策

- ・観光振興のノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・観光客向けの飲食店が増えるなど、産業が活性化する方法を考える。
- ・地域の資源を活かした街づくりに積極的に関わる人材を育成する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
細田 智久	島根大学総合理工学部建築デザイン学科・教授	
矢野 俊人	スプレッドリンク株式会社（島根県6次産業化プランナー）・代表取締役	
岩田 英作	島根県立大学人間文化学部・学部長	
多久和祥司	伊野地区自治協会・会長	
高橋 泰幸	しまね国際センター・常務理事	
岩本 悠	地域・教育魅力化プラットフォーム・共同代表	
佐藤 睦也	島根県教育委員会・教育監	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者	
島根県立平田高等学校（地域協働推進校）	校長	坂根 昌宏
平田商工会議所	会頭	大谷 厚郎
公立大学法人島根県立大学	理事長	清原 正義
出雲市	市長	長岡 秀人
平田ロータリークラブ	会長	釜屋 治男
平田ライオンズクラブ	会長	伊藤 広司
平田地域コミュニティセンター（11地区）	檜山コミュニティセンター長	岡 高秀
平田青年会議所	理事長	多々納 寛之
雲州平田文化協会	会長	山下 壮一
ひらたCATV	代表取締役社長	石原 俊太郎
NPO法人ひらたスポーツ・文化振興機構	理事長	二瀬 武博
出雲市立平田中学校	校長	松原 典生
出雲市立向陽中学校	校長	糸原 進
カリキュラムドクター	島根県非常勤職員	金築 千晴
農林水産省中国四国農政局宍道湖西岸農地整備事業所	所長	井 雄一郎
島根県教育委員会	教育長	新田 英夫
平田高校PTA	PTA会長	日野 ゆかり
平田高校暁星会（卒業生会）	会長	山下 壮一

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	金築 千晴	ひらた在宅SOHO支援センター ポコアネット代表	呼称「カリキュラムドクター（CD）」 ・島根県非常勤職員として雇用 ・平田高校教務部に配置，原則週2日勤務

地域協働学習 支援員	山岡 忍 小村 孝治 伊藤 香奈 竹下 紀子	平田商工会議所 事務局長 平田商工会議所 職員 " "	・呼称「ミッションコーディネーター (MC)」 ・平田商工会議所職員と兼務
---------------	---------------------------------	--------------------------------------	---

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム会議					1回			1回				1回
運営指導委員会					1回		1回	1回			1回	1回
コンソーシアム 構築・運営支援				研修①				研修②			研修③	
	教育庁各課横断の伴走											
探究学習推進	担当者設定		研修①	フォロー①	ミニ研修①	ミニ研修②	フォロー②	中間発表会	ミニ研修③	フォロー③	発表会	研修②
	探究指導主事の伴走											
コーディネーター 研修							①研修 ②研修	③研修	④研修		⑤研修	
高校魅力化評価 システムによる 調査・検証			研修	調査	バック フィールド		研修 活用					
	各校の検証、県担当者の伴走											
ICT 機器整備			研修①	研修②								
	機器・回線整備											
	順次運用											
人員配置												配置決定
	予算要求											

(2) 実績の説明

① コンソーシアム全体会議の開催およびその他の活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
4月 9日	キックオフの会 (CD・MC・担当教員との顔合わせ兼打ち合わせ) 今年度の取り組み案について協議し、役割分担・目指す方向を確認
6月 3日 17日	(2年) 地域協働学習ガイダンス (1年) 総探・キャリア学習ガイダンス
6月10日	地域フィールドワーク
8月 6日	【第1回コンソーシアム全体会議】 コロナ禍で対面では行えない事業について、オンライン等の活用を検討し工夫していくことを確認。
9月 1日	本校学園祭にて、平田ライオンズクラブによる献血活動実施
9月 9日	各地域協働学習の取り組みについて指導助言のためMP来校 (船川河川環境整備促進協) (2-3)
9月10日	島根県立大学 増原准教授によるリモート講演 (2-2)

9月16日	島根県立大学 久保田教授によるリモート講演（2-3・4）
10月10日	多文化交流会（協力：CD・MC・ライオンズクラブ・外国人地域サポーター他）
10月12日	各地域協働学習の取り組みについて指導助言のためMP来校（本町商店街理事・空き家再生共同作業員・一畑電鉄運輸部営業課長）
11月17日	平田高校地域協働フォーラム秋の開催 【第2回コンソーシアム全体会議】 フォーラムの持ち方について協議し、質疑応答の時間を取る、「メモ力」「聞く力」の養成を授業等でも並行させることを確認。
12月22日	1・2年生 地域と高校生の未来を語る会 平田商工会議所、平田ロータリークラブ、平田ライオンズクラブから会員35名を動員
3月16日	平田高校地域協働フォーラム春の開催 【第3回コンソーシアム全体会議】 地域協働フォーラム春を終えての協議、次年度への改善策等の協議
年間を通じて	平田CATVによる平田高校の取り組みの報道 平田地域のほとんどの世帯に放送されている。

②運営指導委員会の開催

活動日程	活動内容
8月6日	第1回運営指導委員会 ・コンソーシアム全体会議と運営指導委員会を分け、各々時間をかけて協議する時間を設けることについて協議し、運営指導委員会の開催回数増を決定。
10月12日	第2回運営指導委員会 ・魅力化評価システムの活用法について協議し、日々の学習活動は探究学習とリンクしていることを気づかせるものにしていくことを確認。
11月17日	第3回運営指導委員会 ・平田高校地域協働フォーラム秋を視察 ・フォーラムの持ち方について協議し、質疑応答の時間を取る、「メモ力」「聞く力」の養成を授業等でも並行させることを確認。
2月22日	第4回運営指導委員会 ・ねらいを持った探究活動となる指導の工夫が必要。探究活動の中で「何を目指して今の活動があるのか」を明確にしたい。
3月16日	第5回運営指導委員会 ・平田高校地域協働フォーラム春を視察 ・全教職員が関わる発表会になっており、体制構築や校内の意識醸成が図られてきたことを感じる。何をもち「探究」とするのか、発表の観点は何かを教職員の間で、また生徒とも共有するためのループリックを作成することが急務。

③体制支援・活動支援

コンソーシアム構築・運営支援	・4箇所先のモデルの知見を他のコンソーシアムの設置や運営に活用。 ・効果的な構築・運営のための年間を通じた伴走を実施。 ・コンソーシアムの運営費、運営マネージャー配置費を支援（県1/2）
探究学習推進	・令和2年度から教育庁に探究学習専任指導主事を配置。 ・あわせて探究学習を推進する教員を各校1名設定し研修を実施（必修5回、希望者3回、助言支援随時）。 ・探究学習（地域課題解決型学習）実施に係る経費を支援し、高校生・教員が探究学習の成果を発表する場（「しまね大交流会」、「しまね探究フェスタ」）を設定（今年度はオンライン実施）。 ・その他年間を通じて探究学習の推進について助言等を実施。
魅力化コーディネーター研修	・市町村等で配置されている魅力化コーディネーターの研修や、教職員のコーディネーター機能の研修を実施。
高校魅力化評価システムの構築と活	・「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するため、生徒と地域へのアンケートを実施。

用研修	・ 検証シートを活用し、学校経営のP D C A構築のための教職員研修を実施。
I C T環境の整備	・ オンライン授業や会議を可能にする回線、モバイルルーター、デバイスを整備。 ・ 教員研修を実施し、教育活動への活動を促進。
人員配置	・ 新しい高校づくりに向かう体制構築として、県単独加配の主幹教諭をR 2年度は12名配置、R 3年度は3名増員（うち1名平田高校）。 ・ R 3年度は高大連携を推進する職員を3名配置（うち1名平田高校）。

④事業終了後の自走を見据えた取組

- ・ 「教育魅力化人づくり推進事業」の継続や教育庁の教育魅力化推進チームの伴走体制の強化による学校・コンソーシアムへの支援の継続
- ・ 令和4年度にはすべての高校にコンソーシアムを設置し、学校運営協議会機能を持たせることを検討
- ・ すべての教職員が活用できるよう継続的に研修を実施
- ・ 探究学習推進担当者を中心とした探究的な学びの質の向上研修の継続
- ・ クラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得についてモデル校での研究を継続、知見を共有
- ・ 卒業後の進路選択を見据えた探究学習や教育課程開発を推進する教職員（主幹教諭、広大連携推進員）の配置、養成・確保・育成
- ・ 全校でグランドデザインを作成・公表し、「高校魅力化評価システム」等を活用したP D C Aサイクルの構築と活用研修の実施

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム開発 専門家との協働研究		1回	8回	9回	3回	4回	7回	3回	2回	1回	7回	2回
地域協働学習支援 員との協議		1回	8回	9回	3回	4回	7回	3回	2回	1回	7回	2回
2年生 地域協働学習 班別探究活動	1回		4回	4回	1回	3回	6回	3回	3回			1回
1年生 個人探究活動			4回	4回	1回	3回	6回	3回	2回	1回	2回	3回
2年生 個人探究活動								3回	3回	1回	2回	3回
3年生 個人探究活動			3回	3回								

(2) 実績の説明

①年間の活動内容

カリキュラム 開発専門家と の協働研究	6月～3月	
	地域協働ワーキングチームへの参加（月に1回程度実施）	
	6月～11月	12～3月
	・ 2年生地域協働学習「班別探究活動」の授業への参加、生徒への働きかけや取りませ方についての協議、担当教師へのアドバイスと地域人材の紹介・	・ 1-2年生「個人探究活動」について担当者との協議（次学年につなげる取り組みや年

	折衝による支援 ・生徒企画行事（多文化交流会）の補佐・助言、事後の教員へのフォロー	度の振り返りを協議。 ・地域人材の紹介-折衝、授業への参加、生徒企画行事（平田まつり）の参加-補佐-助言、事後の教員へのフォロー	
		1月	
		・1-2年生「個人探究活動」の教員支援 ・次年度に向けての事業内容-テーマ設定-日程等の協議（1月当初に1回）講演講師選定、フォーラムの持ち方についての協議	
	4～11月		
地域協働学習実施支援員との協議	2年生地域協働学習「班別探究活動」の支援 ・高校での協議（月に2回程度実施、その他は電子メール） ・地域人材の紹介、授業内での補佐 ・各種地域イベントにおける生徒の活動の補佐		
	4～3月		
	地域資源・地域人材の紹介、授業内容の相談		
	4月・6月	10月	1月
	・平田商工会議所と平田高校との役員打ち合わせ ・2年生班別探究活動に関する協議 2年生地域協働学習のフィールドワークを実施	平田商工会議所と平田高校との役員打ち合わせ 全国サミット参加	平田商工会議所と平田高校との打ち合わせ ・次年度の実施体制、改善点等について検討
学年	4月～7月	8月～11月	12月～3月
1年生	・総探・キャリア学習ガイダンス ・個人探究学習	学部学科ガイダンス 地元企業ガイダンス 職業人講演会 平田ウィングバスツアー 地域協働フォーラム秋	地域と高校生の未来を語る会 「雲州ひらた学」 地域協働フォーラム春
2年生	地域協働学習ガイダンス 地域フィールドワーク 大学教員による講義・実験	島根県立大学学生ゼミナールリモート参加 地域協働フォーラム秋	地域と高校生の未来を語る会 MPによる個人探究学習に向けた講座受講 個人探究学習 地域協働フォーラム春 県立大との意見交換会（オンライン）
3年生	校内でのキャリア学習成果発表会	地域協働フォーラム秋	探究学習を終えて（後輩に向けた発表）

②地域との協働による探究的な学びを取り入れた教科等横断的な学習とする取組

教科	内容
国語	「市民社会化する家族」を読み、出雲の将来を考える。 「出雲風土記」を読み、過去の出雲についての記述を知る。
地歴公民	神仏習合思想とは何か～地元の鰐淵寺と出雲大社の事例から理解する～ 室町時代の流通と出雲地方～木綿とたたらから理解する～
数学	「指数・対数」対数グラフの応用～あずきの成分分析～ 「データの分析」観光客数、来店者数、商品売上データより～分布、散ら

	ばりの分析～
理科	身近な物質の特徴・利用例（化学基礎） 自由落下の加速度を実験から求める（物理）
保健体育	非接触による立ち技の習得
芸術	校歌について
英語	Lesson 3 Soccer Uniforms Say a lot about Countries Lesson 6 The Wonderful World of Colors
家庭	消費者トラブル～あなたならどうする？～ ホームプロジェクト
情報	発表資料作成のための情報リテラシー能力育成（文書、表計算、プレゼン） 主体的な学びの質を高めるクラウド型学習支援システム「Classi」の活用指導

③ 類型毎の趣旨に応じた取組について

地域魅力化型の趣旨は、地域課題解決に関わるカリキュラム開発と、地域ならではの価値を創造する地域人材の育成である。

今年度はこの事業へ理解が進んだこともあり、今まで以上に地域からの協力を得ることができ、より組織的・発展的に取り組むことができた。

また、地域の方から生徒の活動に関わりたいという要望を多くいただき、新たな企画を追加で立ち上げようとする動きが増えた。

一方で、観光客の取り込みを図ろうとする生徒たちの考えと、定住者の日々の生活を守りたいという地域の思いとの相違点が見つかった。

現状を踏まえながらの地域の魅力化推進というカリキュラムの構築は、奥深く多くの可能性を秘めたテーマであることを発見できた。

④ 成果の普及方法・実績について

月日	名称	実績
11 / 7	しまね大交流会（オンライン開催）	2年生班別探究活動の成果発表 2年生の代表4班（12名）参加
11 / 17	平田高校 地域協働フォーラム2020秋	2年生班別探究活動の成果発表 2年生152名全員が発表
1 / 15	埼玉県 地域学校 WINWIN プロジェクトフォーラム（オンライン開催）	地域協働事業全体の成果発表 2年生の代表4名が参加
3 / 16	平田高校 地域協働フォーラム2021春	1・2年生個人探究活動の成果発表 1・2年生293名全員が発表

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

平成30年度の事業申請時、「高校魅力化アンケート」の結果をもとに、本校の状況及び事業内容に照らして成果目標を設定した（①）。

事業初年度にあたる令和元年度アンケートの結果について、肯定的評価の割合や他校との比較により検証したところ、①の設定目標の他にも、本校および地域の実情や課題を的確に示唆する項目が多くあることがわかった。

そこで、これらの項目を成果目標として任意で追加（②）し、より多角的に成果を検証することとした。

① 事業開始前の設定目標

項目	今年度 目標値	今年度 7月	今年度 2月
現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる	生徒:64%	74.6%	79.9%
問題意識を持ち、聞いたり調べたりすることができる	生徒:64%	66.9%	69.1%
自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めることができる。	生徒:65%	70.0%	74.0%
自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	生徒:86% 大人:85%	89.4% 70.8%▼	90.5% 75.6%▼
自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	生徒:65% 大人:57%	64.5%▼ 40.3%▼	71.5% 68.3%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦することができる	生徒:70% 大人:69%	79.0% 52.8%▼	79.9% 73.2%
地元中学生の入学志願割合	27%	23.3%▼	30.0%
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	生徒:70%	73.3%	77.5%
将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う	生徒:55%	60.7%	65.3%
地域で生徒を育てるという意識を持っている	大人:80%	75.9%▼	95.1%
立場や役割を超えて協働している	大人:72%	68.1%▼	73.2%

② 事業開始後に任意で追加した設定目標

項目	今年度 目標値	今年度 7月	今年度 2月
自主的に調べものや取材を行う(主体性)	生徒:70%	64.5%▼	64.7%▼
本音を気兼ねなく発言できる(主体性)	大人:63%	40.3%▼	79.2%
日本や世界の課題の解決方法について考える(社会性)	生徒:38%	54.5%	60.5%
学習を通じて、自分がしたいことが増えている(探究性)	生徒:72%	74.8%	77.9%
勉強したものを実際に応用してみる(探究性)	生徒:59%	65.8%	73.1%
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ(探究性)	生徒:35%	46.4%	55.2%
自分を客観的に理解することができる(探究性)	生徒:65%	72.2%	77.5%
国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい(社会性)	生徒:35%	50.8%	55.6%
私に関わることで、社会状況が変えられると思う(社会性)	生徒:41%	56.5%	59.8%
将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい(社会性)	生徒:61%	64.7%	67.5%
地域文化や暮らしを、自らの手で伝えたい(社会性)	生徒:52%	67.5%	73.1%
地域に尊敬している・あこがれている大人がいる (挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」)	生徒:48%	62.3%	68.0%
将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる (問う・問われる「対話の土壌」)	生徒:75%	62.8%▼	76.6%

いま住んでいる地域の行事に参加した(社会性)	生徒:42%	19.6%▼	25.4%▼
地域社会などでボランティア活動に参加した(社会性)	生徒:34%	17.7%▼	21.4%▼
先生、保護者以外の地域の大人と何気ない会話を交わした(社会性)	生徒:57%	61.4%	64.2%
この学校に入ってよかったと思う(満足度)	生徒:82%	82.8%	82.8%
失敗してもよいという安心・安全な雰囲気がある (挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」) 生徒と大人の差	28%	17.4%	7.8%
本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある (問う・問われる「対話の土壌」) 生徒と大人の差	47%	36.1%	11.0%

(2) 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)

項目	今年度目標値	今年度の実測値および評価
発表会来場者数	のべ500人	285名(現時点) 達成はできない見込み ・地域協働フォーラム秋 50名 ・しまね大交流会(オンライン) 91名 ・地域と高校生の未来を語る会 36名 ・(1月)埼玉県地域学校WINWINプロジェクトフォーラム(オンライン) 108名 ・(予定)地域協働フォーラム春 3月 新型コロナ感染拡大を避けるため、外部への呼びかけは広く行わなかった。また、対外行事はすべてオンラインにより実施した。
ワークショップへの参加者数	15人	0人 新型コロナ感染拡大防止のため、企画自体の中止、及び大学生の招聘事業をすべて中止したため。

(3) 成果検証の概況

① 生徒の状況について

コロナ禍により年度当初予定のアンケートが7月にずれ込んだが、2月のアンケート結果は多くが7月を上回り、今年度目標値を概ね超える結果であり、事業開始時の設定目標については、生徒はすべての項目で目標値を上回った。

特に「平田プラタナスプラン」の骨子ともいえる「将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う」生徒の割合は目標値の55%の約1.2倍の65%となっている。

しかし、自主性、探究性、社会性、自己有用感、挑戦意欲が低い。改善に向け次の取り組みを行う。

- ・ 各教科・科目をはじめ、学校教育活動全体における探究的な学習をいっそう推進する。
- ・ 探究のテーマ設定を工夫することで、生徒の自主的な活動につなげる。
- ・ 主体的な学習者としての成功体験を積み上げて、高い目標に挑戦する意欲を高める。
- ・ 1年生1学期からの主体的な学習機会を確保する。

② 大人の状況について

昨年度より改善はしているが、生徒の傾向と同様に、自分の思いを表出しにくく、挑戦意欲に欠ける状況が見て取れる。大人自身が失敗を恐れず新しいことに積極的に挑戦しようとする意識を、引き続き校外で醸成していく必要がある。改善に向け次の取り組みを行う。

- ・ 事業をとおして「育てたい生徒像」について意見を出し合い、それらの共通部分を見いだすことによって、教員同士、教員と地域の方々との主体性のある生徒育成意識を高める。

- ・ 定期的な教員研修を行い、さまざまな研究開発に挑戦しようとする意欲の向上を図る。
- ・ 地元中学生に対する積極的な本校の魅力発信を検討することにより、地域と学校の自己理解につなげる。

<添付資料> 目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

- (1) 「地域や地域に暮らす人を知る」「地域の課題を知る」「地域の人と話す」ことから始める必要性を感じた。そのため、令和4年度以降も持続可能な教材化に向け「雲州ひらた学」を中心とした探究学習のカリキュラム・デザインの検討を進める。また、1年生の1学期間で「聞く力」「話す力」等の育成も「ひらた学」のカリキュラムに組み込み、育成を図りたい。その後、1年次個人探究、2年次の地域協働学習と進み、今年度2年次後半から始めていた個人探究をやめ、年度末まで地域協働学習の完走を試み、最終的な成果やその検証・まとめ（個人レポート）にまでつなげていく。そうした振り返りを元に、3年次の1学期に、個人探究として進路を見据えた「志望理由書」作成につなげる。
- (2) 教科との連携については、基本的に(1)の「聞く力」「話す力」の醸成場面としての取り組みを念頭に、ある共通テーマを設定し各教科で内容や展開を工夫した横断的な授業開発を図りたい。また継続課題として、どういう形の横断連携が可能かを研究していく。コロナ禍で中止した事業も多く、生徒にとって有意義な年度ではなかったが、インターネット利用やオンライン利用の有効性もわかった。この経験から、対面式ではなくとも可能な情報収集方法を模索していく。また「学び方」や「育成したい能力」について教員間での意思疎通を図るため、本校グランドデザインの構築や教員同士の授業見学や教員研修を充実させていく。
- (3) 本事業1年次は主担当が1人で奮闘していた感があったが、本年度はワーキングチーム（3名で構成）を結成し、それぞれ役割分担をしながらも、定期的に情報交換をしながら推進した。必要に応じて運営委員会や職員会議や副担任会等で情報共有することで、教職員全体の意思疎通を図ることができた。また、多岐にわたる探究学習に関わる行事を、各分掌で受け持つことにより、教職員全体の意識の向上にもつながった。
- (4) 支援員の負担軽減のために、教員やカリキュラム開発等専門家（カリキュラムドクター）との役割分担の明確化、相談・連絡・報告の効率化を図る。また、年間計画や誰もが取り組みやすい指導展開案などのマニュアル作りも必要。
- (5) マニュアル作りと合わせて、教職員と生徒の探究的な学びの指針となるルーブリックの作成を進める。全校体制の探究学習の意識醸成はできてきたが、生徒の日頃の実践や教職員の伴走（指導）の質の担保が課題である。今後、これまでの発表会の状況や本事業の成果指標、県の魅力化評価システムの結果をコンソーシアムで研究し、何のために、どんな結果に向かって探究活動を行うのかを明確にし、探究学習、教科学習の質の向上を図る。

【担当者】

担当課	島根県教育庁教育指導課	TEL	0852-22-6428
氏名	立石 祥美	FAX	0852-22-6026
職名	調整監	e-mail	tateishi-hiromi@edu.pref.shimane.jp